

まずは、小牧市の歴史について調べてみよう。

小牧市ってどんなまち？

小牧市の歴史

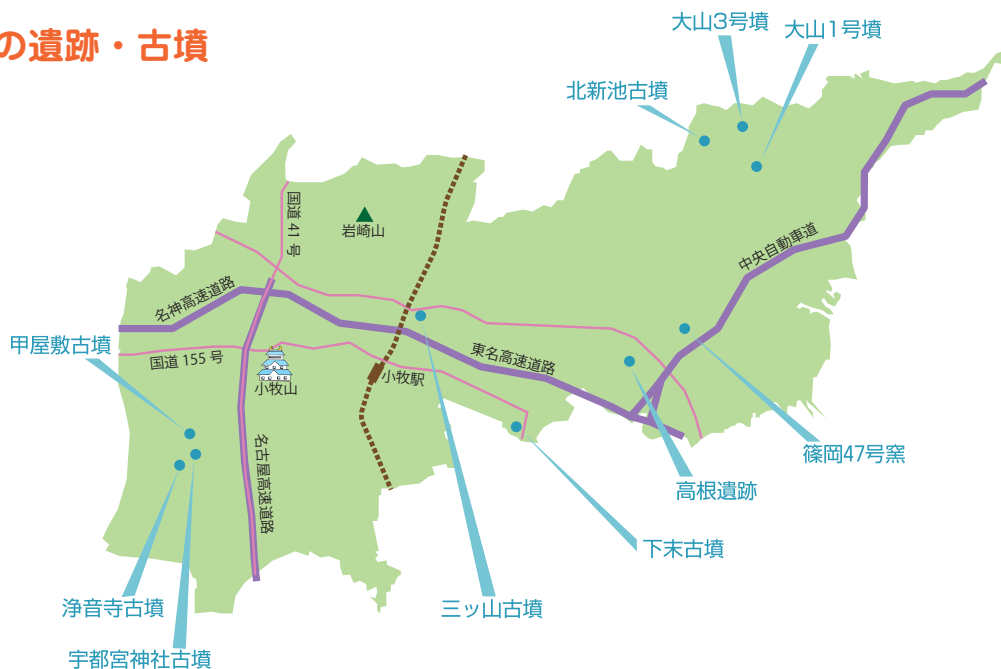
●豆知識 ～小牧市の由来～

- 説1** 元々小牧山の辺りまで海が広がっており、舟人がこの山を目印に帆を巻いたので、「帆巻き山」と呼ばれ、それがなまって「小牧」となったという説。
- 説2** 馬市がよく催されていたため、それに関する言葉である「駒来」(こまき、「駒」は「馬」を意味する言葉)が転じて「小牧」となったという説。

～鎌倉・室町時代～	たくさんの田がつけられ、農業が盛んとなる
1563年(永禄6年)	織田信長が小牧山 ^{※1} に城を築き、今日の小牧市街地の基礎ができた
1584年(天正12年)	「小牧・長久手の合戦」(豊臣秀吉と徳川家康が争った)
～江戸時代～	入鹿・木津などの用水がつけられ、新しい田がたくさんできた
昭和30年代	「小牧菜どころ米どころ」と言われる農業地帯だった
1955年(昭和30年)	1月1日に県内21番目の市として誕生
1959年(昭和34年)	伊勢湾台風をさかいに、企業を誘致する決まりをつくった
昭和40年代	高速道路ができ、工業都市へと変化した
1980年(昭和55年)	名古屋市のベッドタウン ^{※2} である桃花台ニュータウンへの入居開始
～平成の時代～	名古屋高速道路小牧線、上飯田連絡線 ^{かみいだ} ができた
	中部国際空港ができ、名古屋空港は小型機専用の空港に生まれ変わった
2009年(平成21年)	3月に第6次小牧市総合計画をつくった 同年4月より計画に基づき、まちづくりを進めている

小牧市には旧石器時代・縄文時代からの遺跡や古墳が残されています。

主な市内の遺跡・古墳



※1 小牧山：国指定史跡。市街地の西に位置する標高85.9mの小山。

※2 ベッドタウン：大都市へ通勤する人の住宅地を中心に発達したまち。